

和歌山県紀の川市

紀の川スイーツの開発



【地域の基礎データ】

人口：61,094人（令和2年12月末現在）

高齢化率：32.2%（令和2年1月1日現在）

産業：農業（桃・柿・キウイ・いちじく） など

【活動の基本情報】

参加学生数：16名（1回生：5名、2回生：3名、3回生：8名）

活動期間：平成30年5月～

担当教員：竹田明弘

1. 活動実施の経緯

紀の川市は、県内屈指のフルーツ王国である。近年、これらの実績をふまえ、紀の川フルーツツーリズムというプロジェクトを立ち上げ、フルーツ王国として知名度を県内外に高めるための活動を行っている。これら紀の川市の一連の活動を考慮し、本活動ではフルーツを使用したスイーツを開発することで、紀の川市に貢献することを目的として実施された。

2. 活動の内容

本活動は、参加希望した観光学部学生、紀の川市役所、協力店舗の3者の協力のもとで実施したスイーツ開発活動である。本年は、株式会社 藤桃庵、Café sweets Sablier、和歌山電鐵株式会社(たまカフェ)と共同でスイーツの開発を実施した。また、株式会社 藤桃庵との活動については、そこで開発した商品を一般販売することを念頭においていたため、大学生活協同組合とも活動を共にした。活動の成果として、株式会社 藤桃庵については「キルシュ香るホワイトチョコとバニラ苺」として商品化され、和歌山大学生協だけでなく、各地で販売された。また、Café sweets Sablier については「ハロウィーンランチ限定デザート」して10月末から11月初旬にかけて店舗販売された。たまカフェについては、4月発売にむけて活動中である。

3. 活動を通じて

本年は、COVID19 感染拡大による対面活動の制限という特殊な年度であった。ミーティングは主にオンラインミーティングで実施された。当初、このような形態での活動に不慣れなこともあったが、学生の順応性は高く、比較的早期に円滑なミーティング運営ができるようになった。たまカフェなど現在も継続中の活動もあるが、少しでも地域に貢献できるようなスイーツを開発していきたい

4. 成果物（ポスター）



紀の川 LIP

-2020 年度活動報告-



紀の川 LIP は、和歌山県紀の川市のカフェとコラボレーションし、スイーツ開発を行っています。今年度はコロナウイルスの影響もあり、戸惑う場面も多くありましたが、3つのプロジェクトをさせていただくことができました。私たちの活動は、紀の川市の皆様や企業様に支えられ、来年度には大きなプロジェクトに参加させていただきまます。これからも感謝を忘れず、観光学部を代表する LIP として進化していきます。

～活動内容～

- スイーツ開発
- 統計学を勉強
- スイーツに関する調査 etc.



和歌山大学観光学部
アイス はじめました

紀の川市 LIP 事務局

1. アイス開発

藤桃庵さんのジェラートとコラボさせていただきました。高級感にこだわり、お酒の風味と苺の甘酸っぱさを感じる商品になりました。大変好評いただき、来年度は新たなプロジェクトとしてスタートします。



2. ハロウィンスイーツ開発

サブリエさんにご協力いただきました。季節感を重視したデザートプレートを目指し、ハロウィンらしさを見た目でも感じていただける仕上がりになりました。



3. たまカフェスイーツ開発

たま駅長で人気の貴志駅たまカフェさんにご協力いただいている進行中のプロジェクトです。コロナ禍で様々な問題があるなか、新商品の開発を進めています。発売されましたら、ぜひいちご電車に乗って、貴志駅を訪れてみてください。

目指すところ

紀の川市の皆様に、カフェが
無いの場、コミュニティ形成
の場となり、私たちが開発した
スイーツがそのきっかけと
なるよう思いをこめて活動し
ています。

-Kinokawa LIP-